

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	避難計画から避難所生活まで体験してみよう
事業主体 (連絡先)	学校法人高松学園 飯田女子短期大学
事業区分	(4)安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,367,044 円 (うち支援金: 1,080,000 円)

事業内容

令和3年は台風ではなく、集中豪雨などで土砂災害が起こるなどの自然災害を身近に経験した。これらの経験から、「いつ」、「どのような状況になったときに」、「どのように避難するのか」を平時から考えておく必要性を強く感じた。昨年度は「避難所の生活スペース体験」、「健康二次被害の予防方法」、「災害時の食事をどのように確保するか」という発災後の視点で実施した。本年度はさらに「わが家の避難計画・マイタイムラインの作成」を加えて発災前の避難計画から発災後の避難所体験までを実施する。平時からの取り組みの大切さを知ってもらい、さらなる地域防災力の向上を目指す。



【パッククッキング体験の様子】

【目標・ねらい】

- ①平時から避難行動に対する意識の向上
- ②避難所における「自助」と「共助」の重要性への関心
- ③避難所での健康二次被害の予防方法のポイントの理解
- ④災害時における調理方法および非

事業効果

- ①マイタイムラインの作成により、防災マップで自宅や会社、学校周辺の危険箇所を確認したり、警戒レベルと気象情報の関係を伝える事により、発災前からどのように何処へ避難するのかを平時から考えるきっかけをつくる事が出来た。
- ②発災後、避難所で生活するためのスペースとして室内テントと簡易ベッドの設置および撤去を3~4人グループで協力しておこない、共助の大切さを感じてもらった。
- ③最小限の水で口腔ケアをする方法、正しい手指消毒の仕方、エコノミー症候群を防ぐための弾性ストッキングの履き方などを実際に体験してもらい、健康二次被害予防の意識を高めた。
- ④家庭にある食材を利用して、最小限の水で、簡単に温かい食事を作れる方法としてパッククッキングを体験し、備蓄する食料や水、停電時の調理器具への関心を高めた。また、パッククッキングの取り組みを、研修会などで紹介する機会に恵まれた。

※自己評価【 A 】

【理由】
自治体と連携、学校と連携、短大単独で募集するなど、様々な形で事業を行なうことが出来た。また、アンケート結果から、参加者の満足度も高く、問題意識を持ちながら参加している事から、地域防災力の向上につながったと考えられるため。

今後の取り組み

防災訓練は継続して何度も繰り返して実施し、いつか来る災害に備える事が必要である。例えば、天竜川流域においては豪雨による天竜川の氾濫や、土砂災害が起こる危険性がある。さらに、飯田市をはじめその周辺地域は、南海トラフ地震防災対策推進地域の指定地域となっている。南海トラフ地震は今後30年以内に発生する確率が70から80%と言われており、自分事として捉え、備えることが必要であると考えられる。しかし、実際は今回のアンケート結果を見てみると、「日頃から災害に対する備えをしているか」の間に対して、備えていると答えたのは約40%であった。災害が発生して3日間は外部の支援が来ない可能性が高い。そこで今後は、自分自身の備えの見直しと、地域住民や職場などの仲間同士で「自助」や「共助」を体験できる取り組みを進めていきたいと考えている。具体的には、地震体験ツアーの実施(静岡地震防災センター 予定)、救命救急法講座、パッククッキングに加え薪を使った大釜炊き出し訓練、避難所誘導ゲーム(HUG)などである。炊き出し訓練は、例えば、運動会や地域の行事に合わせて、地域の方と協力して行うのも一つの方法だと考えている。最終目標は、募集型防災訓練(救命救急法講座、擬似避難所体験(テント設営、薪を使った大釜炊き出し訓練、車いす避難体験など)の開催を継続して行ない、防災意識を持続できる環境を整えたいと考えている。